

今週（10月17日から10月21日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、新しい積み期間に入った事でレート水準は低下となった。9月下旬に新型コロナオペの残高が大きく減少した事に伴い、マクロ加算残高2倍措置による余裕枠が減少した先も多く、ビッドサイドの勢いはこれまでに比べやや後退した。無担保コールO/N物は、引き続き邦銀業態からの調達を中心に中心ではあるが、一部外銀業態からの調達も散見された。加重平均レートは、週前半はレート目線が定まり辛いなか、▲0.06%台での推移となったが、週後半にかけては、緩やかに上昇し▲0.05%近辺での推移となった。

ターム物に関しては、ショートターム物を中心に▲0.065～▲0.05%での引き合いが散見された。

日銀当座預金残高は、週を通して大きな変動はなく490兆円前後での推移となった。

また今週は、長期金利の上昇に伴いカレント3銘柄を対象とした指値オペへの応札が増加する中、20日には臨時の国債買入オペが実施された（残存期間5年超10年以下：1,000億円、残存期間10年超25年以下：1,000億円、残存期間25年超：500億円）。21日には、予定されていた輪番制の国債買入オペで、増額・追加の措置が取られた（【増額】残存期間1年超3年以下：4,750→5,000億円、残存期間3年超5年以下：4,750→5,750億円、残存期間5年超10年以下：5,500→6,500億円、【追加】残存期間10年超25年以下：1,000億円）。

●レポ市場

今週のO/N GCは、▲0.09～▲0.07%のレンジでの取引となった。

足元GCは投資家の資金調達意欲が強く、しっかりと地合いとなった。

SCは、カレント銘柄近辺や、チーベスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、19日に1Y物の入札が実施され、弱めの結果となったが、結果発表後のセカンダリーマーケットではしっかりと推移した。しかし、この入札結果を受けてか、その後の6M～1Yゾーンは軟調な展開となった。21日には、3M物の入札が実施され、事前予想に比べやや強めの結果となり、結果発表後のセカンダリーマーケットでも堅調な推移となった。

18日に実施された短国買入オペは、前回と同額の1,000億円でオファーされ、全取利回り較差+0.031%、平均利回り較差+0.036%と弱めの結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、週間の発行総額1兆2,000億円に対して償還総額が7,600億円と、発行超のマーケットとなった。電気・ガス、石油、鉄鋼等の複数業態から大型発行が相次いで実施された。

市場残高は、期明け後の調達再開の取り組みから、10月3日以降連日増加する展開となり、26兆円台まで積み上がってきている。

発行レートは、キャッシュつづしニーズ等が根強く、引き続き0%から浅いプラス圏での出合いが中心となり、特に年内償還物は狭いレンジに集中した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
10/17 (月)	26,775.79	0.250	148.58	△ 0.065	△ 0.085	4,895,400
10/18 (火)	27,156.14	0.250	148.90	△ 0.063	△ 0.085	4,911,500
10/19 (水)	27,257.38	0.250	149.18	△ 0.056	△ 0.085	4,901,900
10/20 (木)	27,006.96	0.250	149.93	△ 0.052	△ 0.082	4,895,300
10/21 (金)	26,890.58	0.250	150.38	△ 0.049	△ 0.072	4,910,400

来週（10月24日から10月28日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
10/24 (月)				
10/25 (火)	月例経済報告 (内閣府)	流動性供給 5,000億円 10/26発行	交付税借入 13,000億円 11/2借入	8月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 10月の米CB消費者信頼感指数
10/26 (水)	9月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50) 8月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)			9月の米新築一戸建て販売件数
10/27 (木)	日銀政策委・金融政策決定会合(1日目 14:00~)	TB3M 60,000億円 10/31発行	2Y 28,000億円 11/1発行	ECB定例理事会(金融政策発表) 7-9月期の米GDP速報値 9月の米耐久財新規受注
10/28 (金)	日銀政策委・金融政策決定会合(2日目 9:00~) 日銀総裁定例会見(15:30) 経済・物価情勢の展望 9月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 9月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 10月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)			9月の米個人所得・消費支出

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給予因
10/24 (月)	▲ 200	▲ 5,000	▲ 5,200	国債買入 国債補完 社債買入	9,700 ▲ 400	22,500	31,800	26,600	TB3M発行▲60,000 償還56,000 交付税借入▲13,000 期日13,000
10/25 (火)	▲ 500	43,000	42,500	社債買入		1,000	1,000	43,500	TB6M償還33,800
10/26 (水)	▲ 1,000	▲ 5,000	▲ 6,000	全店共通	▲ 8,200		▲ 8,200	▲ 14,200	流動性供給発行▲5,000
10/27 (木)	▲ 1,000	15,000	14,000	新型コロナオペ	▲ 2,400		▲ 2,400	11,600	
10/28 (金)	▲ 500	1,700	1,200				0	1,200	
週間合計	▲ 3,200	49,700	46,500	—	▲ 1,300	23,500	22,200	68,700	

10/24は日銀予想、10/25以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、大きな変化は見込まれず、無担保コールON物は引き続き▲0.06～▲0.04%近辺での出会いが中心となろう。債券レボGC O/N物は、▲0.10～▲0.06%のレンジでの推移が予想される。短国市場は、27日に3M物の入札実施が予定されている。また、25日に実施が予想される短国買入オペは、1,000億円程度が見込まれる。CP市場は、26日にCP等買入オペが予定されている。前回は按分落札レート、平均落札レートともに前回比で低下したことから、レート動向が注目される。

主要なイベントは、国内では、27日から28日に日銀金融政策決定会合、海外では、26日に9月の米新築一戸建て販売件数、27日にECB定例理事会、7-9月期の米GDP速報値、28日に9月の米個人所得・消費支出などの発表が予定されている。

- ◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされまようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。